第１７章　公共交通関係施設及び駅周辺施設

本章では、自動車駐車場（駐車場）や自転車駐車場（駐輪場）、自由通路などの公共交通関係施設のほか、駅付近にある施設で他の章で言及していないものとして、防犯センター兼図書館分館を取り上げます。

駐車場や駐輪場は、商業エリアへの誘客や鉄道・路線バスなどの公共交通機関へのアクセス確保のために必要ですが、民間による供給も期待できる施設です。

第１節　自動車駐車場（駐車場）

他の公共施設に附属するものを除き、本市が設置する駐車場としては、本町駐車場（立体式駐車場）と熊谷駅南口駐車場（屋外の平置式駐車場）があります。

１　施設概要

本町駐車場（①）は、市街地駐車場の確保及び交通の円滑化・都市機能の活性化を目的に建設された地上６階７層建ての立体式駐車場で、３０５台が駐車可能です。熊谷駅南口駐車場（②）は、駅利用者の利便性向上のために設置された屋外の平置式駐車場で、１０台が駐車可能です。これらの概要は、図表 17-1-1 のとおりです。

【図表17-1-1】施設概要（駐車場）

2016年3月31日現在

No.	名称	敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	本町駐車場	1,792.70	1996	8,283.31	2046	2021	○		立体式駐車場。2018年度で借入金全額償還予定
②	熊谷駅南口駐車場	350.00	1983	－	－	－	－		平置式駐車場
	合計	2,142.70		8,283.31					

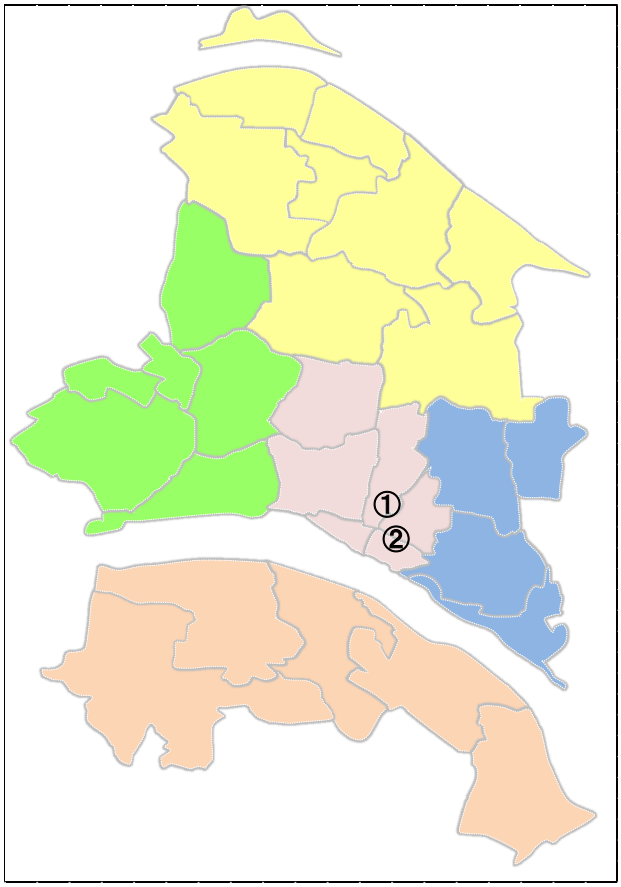
＊　熊谷駅南口駐車場については、「建築年度」は「設置年度」と読み替えてください。

２　配置状況

各駐車場の配置状況は、図表 17-1-2 のとおりです。

その名のとおり、本町駐車場は本町において国道１７号に面して、熊谷駅南口駐車場は同駅南口のロータリー内にそれぞれ設置されています。

【図表17-1-2】配置状況（駐車場）



３　利用状況

各駐車場の利用状況は、次頁の図表 17-1-３Ａ、Ｂ及びＣのとおりです。

本町駐車場は、利用形態として時間貸しと月単位の定期利用の両方があり、周辺での買い物や飲食、祭・イベントの観覧等における一時的な駐車や、近隣の住民やオフィスにおける定期駐車に使われています。熊谷駅南口駐車場は、駅での送迎等に伴う短時間利用を想定しています。

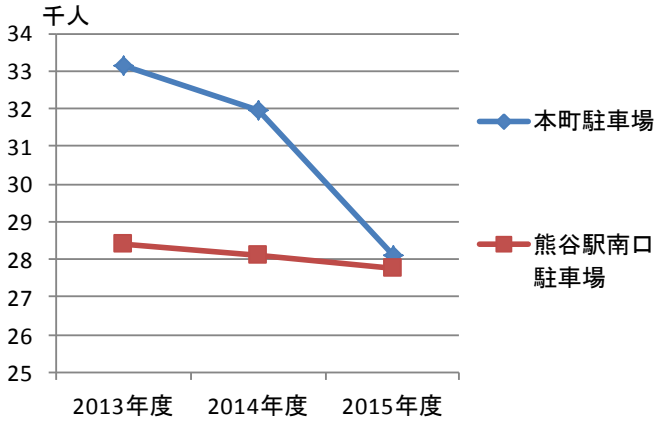
【図表17-1-3 A】利用状況（駐車場）

2013～15年度の3か年平均

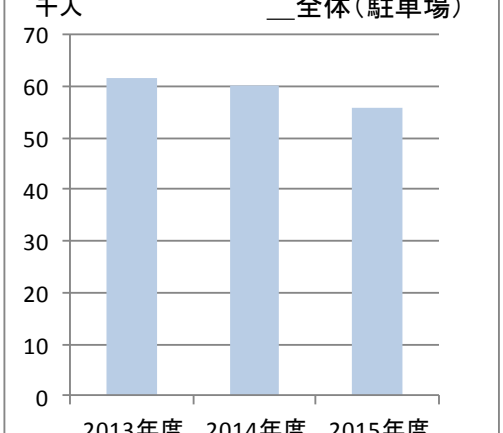
No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用台数（台）ⓑ	開館1日当たり利用台数（台/日）ⓑ／ⓐ	稼働率	備考（諸室、設備等）
①	本町駐車場	365	31,061	85	27.9%	収容台数　305台（うち身障者用　3台）
②	熊谷駅南口駐車場	365	28,087	77	－	収容台数　10台（うち身障者用　1台）
	合計（全体）		59,148	162		

＊　本町駐車場の「稼働率」は、収容台数（305台）を1日当たり利用台数（平均）で除して算出しています。

【図表17-1-3 B】利用台数推移＿施設別（駐車場）



【図表17-1-3 C】利用台数推移＿全体（駐車場）



4　コスト状況

人件費を含めたコストの状況は、図表 17-1-4 のとおりです。

熊谷駅南口駐車場は、経常的にみると、費用（コスト）を上回る収入があります。

5　災害時の役割

各駐車場は、災害発生時の避難場所・避難所には指定されていません。

6　管理運営の状況

本町駐車場は、現在民間管理会社に管理運営を委託しています。建設時の借入金の償還が 2018（平成 30）年度に完了の予定であることから、効率性・利便性等の向上のため、指定管理の導入なども検討事項です。

熊谷駅南口駐車場は、直営管理ですが、機械による管理のため、コストが抑えられています。

【図表17-1-4】コスト状況（駐車場）

単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	本町駐車場	32,649	0	27,483	60,132	19,033	32	19,065	0	41,067	
②	熊谷駅南口駐車場	2,604	0	51	2,655	4,213	0	4,213	0	△ 1,558	
	合計	35,253	0	27,534	62,787	23,246	32	23,278	0	39,509	

＊「減価償却費」に関し、本町駐車場については、基本方針における推計値ではなく、建設費を基に別途推計した値を計上しています。熊谷駅南口駐車場については、路面舗装の打替え費用等を計上しています。

7　利用者・市民の負担状況

利用車両１台・利用１回当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、図表17-1-7です（※1）。

駐車場全体では、利用者負担額が市のコストに占める割合（水色の枠の部分）は３６%であり、残りの６４%は施設を利用しない人も含めた市民全体で負担している状況です（比較の対象を維持管理運営費に限れば、利用者負担割合は約６３%となります。備考欄参照）。

【図表17-1-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（駐車場）　　単位：円

No.	名称	利用車両1台・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	本町駐車場	613	1,051	885	1	1,935	31.7%	162	136	94	204	58.3%
②	熊谷駅南口駐車場	150	93	2	0	95	157.9%	13	0	21	△ 8	161.3%
	全体	393	596	466	1	1,061	37.0%	175	136	115	196	65.9%

8　合併等に伴う整理統合の状況

本町駐車場と熊谷駅南口駐車場とでは、その設置目的や利用形態などが異なるため、整理統合の検討対象にはなりにくいといえます。

ただし、駐車場機能の存続については、近隣の民間駐車場の存在や将来需要も考慮し、長期的視点に立って検討する必要があります。

9　耐震化及び老朽化対策の状況

本町駐車場は、1996（平成８）年度に現在の場所に移転・建替えを行ってから、必要に応じて最小限の設備の改修等を実施しているものの、劣化が進行した個所もあり、早急に大規模な補修が必要です。

熊谷駅南口駐車場は、設備が屋外にあり無人管理であるため、機器の劣化や老朽化への対策が必要です。

（※1）利用形態としては、時間貸しのほか、月単位の定期利用に供していますが、計算に当たり、利用形態による区分は行っていません。また、本町駐車場を利用しての買い物や飲食等、周辺への経済効果も含めて検討できればよいのですが、データがないため不可能でした。

第2節　自転車駐車場（駐輪場）

自転車は日常生活における身近な交通手段としてのみならず、健康増進や環境保護の面でも有効ですが、駅周辺等での放置問題が発生しがちです。そのため、本市では全部で6か所の自転車駐車場と、撤去した放置自転車等の保管場所1か所を整備して対応するとともに、公共交通の環境整備として駅利用者の利便性を図っています。

1　施設概要

本市の自転車駐車場（以下、「駐輪場」と表記します。）の概要は、図表 17-2-1 のとおりです。

JR 熊谷駅高架下を借用し整備した熊谷駅自転車駐車場（①）は重層式駐輪場で、ゲート式機械管理と有人管理を併用する有料駐輪場です。その他の駐輪場は、平置式で無人管理の無料駐輪場です。伊勢町撤去自転車保管場所については、撤去自転車返還日のみ有人管理で、返還日以外は開放していません。

【図表17-2-1】施設概要（駐輪場）

No.	名称	敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷駅自転車駐車場	2,141.00	1983	2,348.00	2033	2008	○		立体式駐輪場（有料）。全部借地
②	熊谷駅西自転車駐車場	1,125.00	1986	―	－	－	－		平置式駐輪場(無料)。全部借地
③	上熊谷駅東自転車駐車場	231.00	1985	―	－	－	－		〃
④	籠原駅東自転車駐車場	690.97	1983	―	－	－	－		平置式駐輪場(無料)
⑤	籠原駅西自転車駐車場	650.00	1987	―	－	－	－		平置式駐輪場(無料)。県有地を含め一部借地（204.00㎡）
⑥	籠原駅西陸橋下自転車駐車場	516.94	1987	―	－	－	－		平置式駐輪場(無料)。敷地は県有地
⑦	伊勢町撤去自転車保管場所	1,339.00	1988	―	－	－	－		撤去自転車の保管場所（平置式）。全部借地
	合計	6,693.91		2,348.00					

＊「建築年度」は、熊谷駅自転車駐車場以外の駐輪場については、「設置年度」と読み替えてください。

2　配置状況

各駐輪場の配置状況は、次頁の図表 17-2-2 のとおりです。

市民が直接利用する施設としては、熊谷駅に２か所、籠原駅に３か所、上熊谷駅に１か所の配置となっています。

3　利用状況

各駐輪場の利用状況は、次頁の図表 17-2-3 Ａ及び Ｂのとおりです。

利用者数は、熊谷駅自転車駐車場が最も多くなっています。

稼働率は、籠原駅周辺の駐輪場においていずれも１００％（満車状態に基づく推計）となっています。これは、駐輪場の立地場所が駅に近く無料であるのと、駅北口の民間駐輪場業者の廃業の影響によるものと考えられますが、新規民間業者による駐輪場の開発も予定されており、改善する見込みです。

4　コスト状況

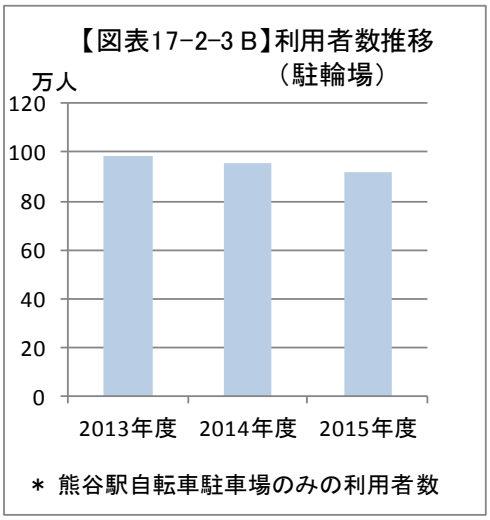
各施設の人件費を含めたコストの状況は、次頁の図表 17-2-4 のとおりです。

全ての施設で費用が収入を上回っていますが、熊谷駅自転車駐車場は、維持管理運営費を上回る使用料収入があります。

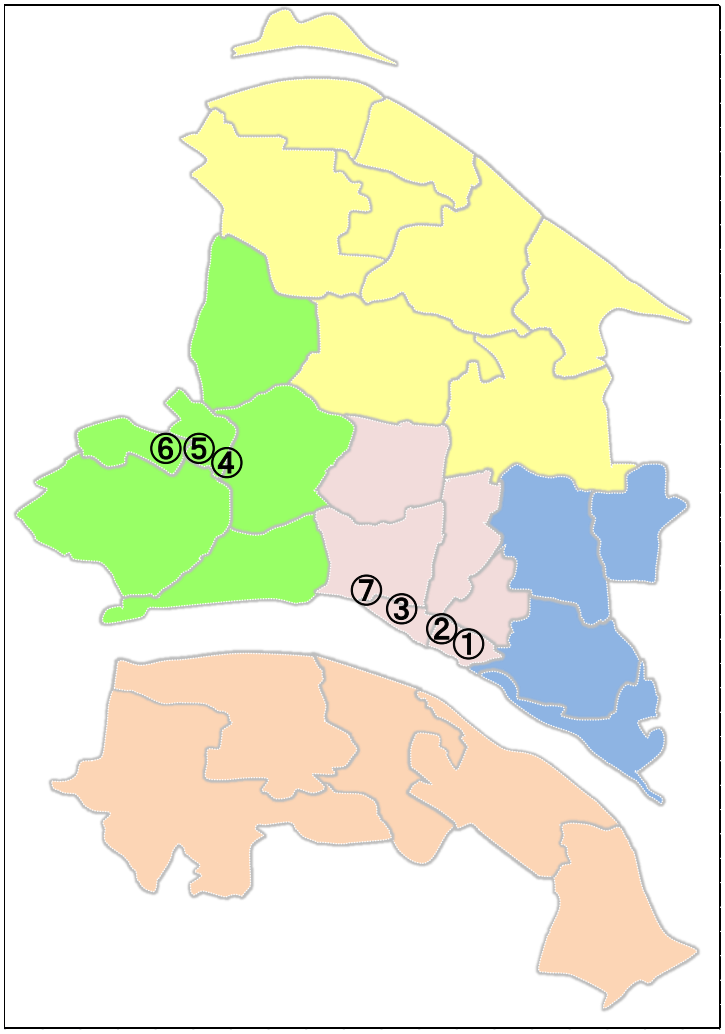
5　災害時の役割

各駐輪場は、災害発生時の避難場所・避難所には指定されていません。

【図表17-2-3 B】利用者数推移（駐輪場）



【図表17-2-2】配置状況（駐輪場）



【図表17-2-3 A】利用状況（駐輪場）

2013～15年度の3か年平均

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ／ⓐ	稼働率	備考（諸室、設備等）
①	熊谷駅自転車駐車場	365	953,181	2,611	78.0%	収容台数　3,345台
②	熊谷駅西自転車駐車場	365	146,000	400	50.0%	収容台数　800台(概算)
③	上熊谷駅東自転車駐車場	365	21,900	60	50.0%	収容台数　120台(概算)
④	籠原駅東自転車駐車場	365	120,450	330	100.0%	収容台数　330台(概算)
⑤	籠原駅西自転車駐車場	365	182,500	500	100.0%	収容台数　500台(概算)
⑥	籠原駅西陸橋下自転車駐車場	365	113,150	310	100.0%	収容台数　310台(概算)
⑦	伊勢町撤去自転車保管場所	86	982	11	―	収容台数　1,000台(概算)
	合計（全体）		1,537,181	4,211		伊勢町撤去自転車保管場所の分を除く。

＊1　熊谷駅自転車駐車場以外の駐輪場（②～⑥）の「年間利用者数」等は、概算による推計値です。

＊2　伊勢町撤去自転車保管場所の利用者数は、放置整理区域内から撤去した自転車を新たに保管した台数です。

【図表17-2-4】コスト状況（駐輪場）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	熊谷駅自転車駐車場	52,016	0	26,298	78,314	60,832	0	60,832	0	17,482	
②	熊谷駅西自転車駐車場	344	0	164	508	0	0	0	0	508	
③	上熊谷駅東自転車駐車場	268	0	34	302	0	0	0	0	302	
④	籠原駅東自転車駐車場	727	0	101	828	0	2	2	0	826	
⑤	籠原駅西自転車駐車場	727	0	161	888	0	1	1	0	887	
⑥	籠原駅西陸橋下自転車駐車場	727	0	75	802	0	0	0	0	802	
⑦	伊勢町撤去自転車保管場所	1,791	0	195	1,986	0	0	0	0	1,986	
	合計	56,600	0	27,028	83,628	60,832	3	60,835	0	22,793	

＊　放置自転車の撤去費用（コスト）と撤去手数料（収入）は、いずれも表には計上していません。

６　管理運営の状況

各施設は市の直営管理ですが、通常の運営業務は外部委託しています。熊谷駅自転車駐車場において、料金収入が委託費用（維持管理運営費）を上回っているように（図表 17-2-4 参照）、効率性等の追求がなされています。

今後については、新設・既設を問わず、公益財団法人自転車駐車場整備センター等への委託や指定管理者制度、ＰＦＩ等の導入も選択肢です。

７　利用者・市民の負担状況

利用者１人・利用１回当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、図表 17-2-7 です。

利用者負担額が市のコストに占める割合（水色の枠の部分）をみると、駐輪場全体ではその割合は約７４％であり、残りの約２６％は施設を利用しない人も含めた市民全体で負担している状況です（ただし、比較の対象を維持管理運営費に限ると、利用者負担割合は１００％を超えます。備考欄参照）。

【図表17-2-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（駐輪場）　　単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民1人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ= Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	熊谷駅自転車駐車場	64	55	28	0	83	77.1%	258	130	301	87	116.4%
②	熊谷駅西自転車駐車場	0	2	1	0	3	0.0%	2	1	0	3	0.0%
③	上熊谷駅東自転車駐車場	0	12	2	0	14	0.0%	1	0	0	1	0.0%
④	籠原駅東自転車駐車場	0	6	1	0	7	0.0%	4	1	0	5	0.0%
⑤	籠原駅西自転車駐車場	0	4	1	0	5	0.0%	4	1	0	5	0.0%
⑥	籠原駅西陸橋下自転車駐車場	0	6	1	0	7	0.0%	4	0	0	4	0.0%
⑦	伊勢町撤去自転車保管場所	0	1,824	199	0	2,023	0.0%	9	1	0	10	0.0%
	全体	40	37	18	0	55	72.7%	280	134	301	113	108.1%

８　合併等に伴う整理統合の状況

合併後、駐輪場の整理統合は実施されていません。しかし、駐輪の需要が特に多いと見込まれる熊谷、籠原及び上熊谷の各駅周辺に配置され、また、高い稼働状況にあることを考慮すれば、駐輪場については、単純な整理統合の議論はなじみません。

ただし、駅周辺の再開発事業や民間施設の充実といった事情が生じた場合においては、整理統合・再配置や複合化（重層化等）の検討も必要となります。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

熊谷駅自転車駐車場の耐震性に問題はありませんが、老朽化に関しては、大規模修繕又は長寿命化の実施が必要になります。

他の駐輪場については、平置式であり建物の耐用年限の考え方になじまないため、図表 17-2-1 にも耐用年限を示していませんが、整地・舗装等や附属施設の修繕などを必要に応じて行う必要があります。

第３節　その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設

本節では、駐車場・駐輪場以外の公共交通関係施設として駅の自由通路とゆうゆうバスの待合所（屋根付きのもの）を、また、駅周辺施設として防犯センター兼図書館分室を取り上げます。

１　施設概要

各施設の概要は、図表 17-3-1 のとおりです。

熊谷駅前防犯センター【安心館】（①）は、熊谷駅周辺地域等の防犯活動の支援と犯罪の防止、環境浄化を図るため、2006（平成 18）年４月に熊谷駅西通り商店街内に開設された施設で、熊谷図書館分室と「まちかど観光案内所」を兼ねています。民間ビルを賃借し、１階を防犯センター、予約図書の受取り・貸出図書の返却受付及び観光案内所、２階を熊谷図書館分室、３階を熊谷駅と籠原駅周辺に設置した 19 台の防犯カメラのレコーダー設置場所としてそれぞれ使用しており、正月三が日を除いて毎日 13～21 時まで開館しています。

自由通路は、鉄道で分断された市街地の一体化、周辺交通の円滑化等、鉄道利用者及び地域住民の安全性や利便性の向上を図るための施設です。1983（昭和 58）年 11 月に熊谷駅自由通路（②）が、1988（昭和 63）年 10 月に籠原駅自由通路（③）がそれぞれ開通しました。自由通路は、周辺の施設と一体となって街のにぎわいを形成するものとして、地域の活性化を図る上でも極めて重要な役割を担っています。

屋根付きバス待合所（④～⑨）は、熊谷市バス待合所条例に基づき市内６か所に設置されています。全てが木造となっています。

【図表17-3-1】施設概要（その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設）　　2016年3月31日現在

No.	名称	敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	熊谷駅前防犯センター【安心館】	44.62	1992	128.03	2042	2017	○		土地・建物とも民間から借用
②	熊谷駅自由通路	―	1983	684.28	2033	2008	○		橋上駅（駅舎）と接続。全部借地。延床面積はひさし部分を除く。
③	籠原駅自由通路	―	1988	908.87	2038	2013	○		橋上駅（駅舎）と接続。全部借地
④	長島記念館前待合所	228.00	1996	3.60	2036	2016	―		全部借地（転回場を含む。）
⑤	玉作待合所	5.00	1998	1.50	2038	2018	―		
⑥	津田待合所	2.40	1998	2.40	2038	2018	―		
⑦	大里行政センター前待合所	1.50	1995	1.50	2035	2015	―		
⑧	高本待合所	―	1996	2.40	2036	2016	―		全部借地（112.32㎡の一部を借り受けている。）
⑨	市田小学校前待合所	1.50	1995	1.50	2035	2015	―		
	合計	283.02		1,606.05					敷地面積は高本待合所の分を、延床面積は【安心館】の分を除く。

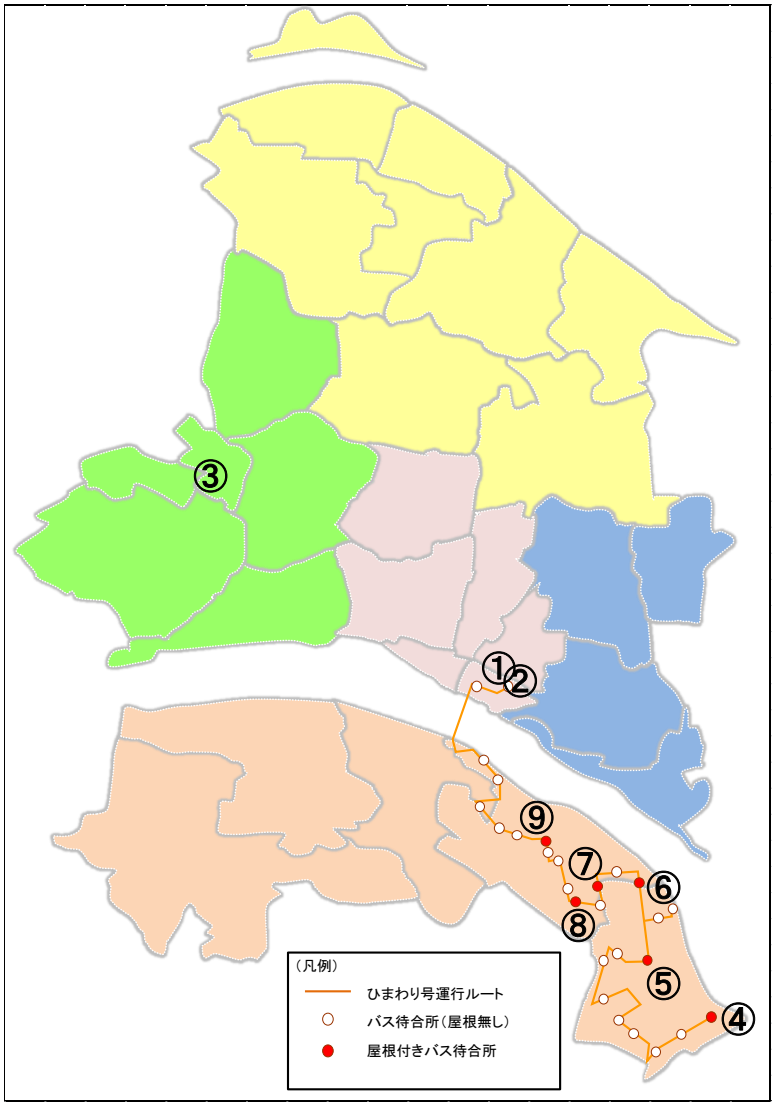
２　配置状況

各施設の配置状況は、次頁の図表 17-3-2 のとおりです。

【安心館】（①）は、JR 熊谷駅正面口から西へ約１５０mの位置にあります。

屋根付きバス待合所（④～⑨）は、いずれもゆうゆうバス「ひまわり号」のバス停として大里地区内に配置されています。

【図表17-3-2】配置状況（その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設）



３　利用状況

各施設の利用状況は、図表17-3-3Ａ及びＢ（Ｂは次頁）のとおりです。

【安心館】の利用状況を目的別にみると、約７千人の利用者のうち、図書館利用が約6，０００人と大半を占め、ほかに観光案内約３００人などとなっています。このほか、駅前の防犯パトロールをほぼ毎日実施しています。

熊谷図書館分室としての機能については、熊谷駅正面口の至近に位置するため、駅を利用するビジネスマンや学生にとっては、朝晩の通勤通学のついでに本をブックポストに返却することができ、夜９時まで開館しているため、インターネットから予約しておいた資料を、帰りに受け取ることもできる便利な場所です。

熊谷駅及び籠原駅の１日当たり乗降客数は、熊谷駅がＪＲと秩父鉄道を合わせて約７万人、籠原駅は約３万人と、両駅とも大勢に利用されています。各自由通路の利用者数は不明ですが、駅の乗降客や駅周辺施設の利用者に広く利用されているほか、踏切待ちをせずに安全に線路を越えられるため、地域の方にも利用されています。

屋根付きバス待合所の利用者数は、バス乗車人数から算出しています。

【図表17-3-3 A】利用状況（その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設）　　2013～15年度の3か年平均

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人／日）ⓑ／ⓐ	開館率	備考（諸室、設備等）
①	【安心館】	362	7,080	20	99.2%	
②	熊谷駅自由通路	365			100.0%	
③	籠原駅自由通路	365			100.0%	
④	長島記念館前待合所	362	685	2	99.2%	
⑤	玉作待合所	362	973	3	99.2%	
⑥	津田待合所	362	994	3	99.2%	
⑦	大里行政センター前待合所	362	2,227	6	99.2%	
⑧	高本待合所	362	312	1	99.2%	
⑨	市田小学校前待合所	362	1,626	4	99.2%	

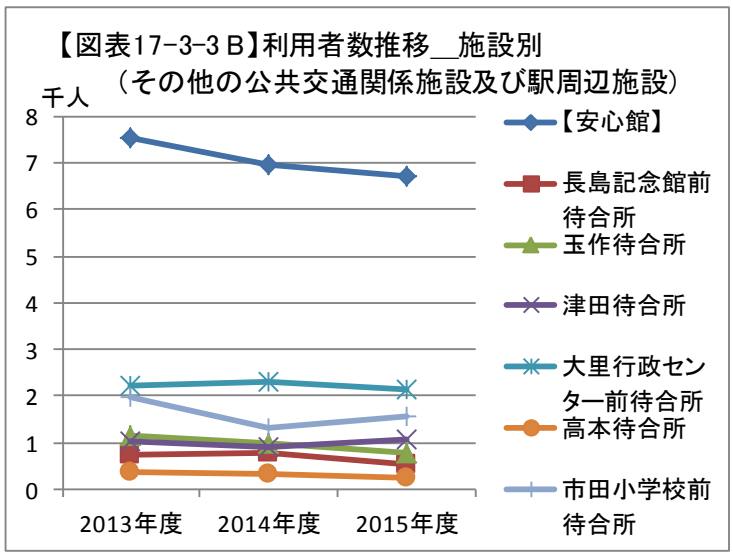
4　コスト状況

各施設の人件費を含めたコストの状況は、図表 17-3-4 のとおりです。

【安心館】は賃借により設置された施設のため、減価償却費は「0円」です（代わりに毎年賃借料を支払っています。）。

籠原駅自由通路の臨時支出は、通路に附属するエレベーターの改修工事費です。

【安心館】の経常収入は運営費に対する県の補助金であり、自由通路の経常収入は広告掲載料や自由通路上の店舗からの使用料などです。



【図表17-3-4】コスト状況（その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	【安心館】	17,665	0	0	17,665	0	2,162	2,162	0	15,503	
②	熊谷駅自由通路	11,157	0	10,014	21,171	0	1,394	1,394	0	19,777	冷却ミストの費用を含む。
③	籠原駅自由通路	6,504	20,520	10,179	16,683	0	184	184	0	16,499	
④	長島記念館前待合所	2	0	50	52	0	0	0	0	52	
⑤	玉作待合所	0	0	21	21	0	0	0	0	21	
⑥	津田待合所	0	0	34	34	0	0	0	0	34	
⑦	大里行政センター前待合所	0	0	21	21	0	0	0	0	21	
⑧	高本待合所	0	0	34	34	0	0	0	0	34	
⑨	市田小学校前待合所	0	0	21	21	0	0	0	0	21	
	合計	35,328	20,520	20,374	55,702	0	3,740	3,740	0	51,962	

5　災害時の役割

いずれの施設も災害発生時の避難場所・避難所には指定されていません。

ただし、熊谷駅と籠原駅の自由通路は、災害発生により交通機関が麻痺した場合には、多くの帰宅困難者が一時滞在することとなる事態が想定されます。

6　管理運営の状況

いずれの施設も直営管理ですが、保守管理、清掃等多くの業務を民間委託しています。【安心館】は賃貸借契約により使用しています。

7　利用者・市民の負担状況

施設利用者１人・利用１回当たりのコストや市民１人当たりの年間コスト（負担状況）は、次頁の図

表 17-3-7 のとおりです。

屋根付きバス待合所の「市民１人当たり年間コスト（負担額）」は、各数値が0．５未満のため表示されていません。

【図表17-3-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（その他の公共交通関係施設及び駅周辺施設）　単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト									
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ= Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ −Ⓗ	
①	【安心館】	0	2,495	0	305	2,190	0.0%	88	0	11	77	
②	熊谷駅自由通路							55	50	7	98	
③	籠原駅自由通路							32	50	1	81	
④	長島記念館前待合所	0	3	73	0	76	0.0%	0	0	0	0	
⑤	玉作待合所	0	0	22	0	22	0.0%	0	0	0	0	
⑥	津田待合所	0	0	34	0	34	0.0%	0	0	0	0	
⑦	大里行政センター前待合所	0	0	9	0	9	0.0%	0	0	0	0	
⑧	高本待合所	0	0	109	0	109	0.0%	0	0	0	0	
⑨	市田小学校前待合所	0	0	13	0	13	0.0%	0	0	0	0	

８　合併等に伴う整理統合の状況

【安心館】は賃借により設置された施設のため、建物自体は整理統合の対象外です。その機能を存続させる場合は、賃借を継続すべきか、市有施設として更新すべきか等を検討することとなります。なお、熊谷図書館分室の機能には風俗店の新規出店に対する抑制効果もあるので、今後の存続についてはこの点も含めて検討が必要です。

自由通路は、熊谷・籠原両駅とも橋上駅のため、整理統合の対象外です。

屋根付きバス待合所は、旧大里町の施設を合併時に引き継いだもので、大里地区にしかありません。整理統合を検討する場合は、施設自体の有用性や他の地区との均衡も考慮することとなります。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

自由通路の耐震性能については、いずれの通路も新耐震基準施行後の建築であるため、耐震基準を満たしていることが予想されますが、耐震診断自体は未実施です。

老朽化対策については、各施設ともに補修等により対応しています。